『世界の日本語教育』13, 2003 年 9 月

逆接を表す「ところで」の意味記述

加　藤　理　恵*

キーワード:「ところで」「ても」逆接，事態の段階

要　旨

本稿は，逆接を表す「ところで」の意味について考察をし，「ところで」は話者が因果関係と比較した結果，「ところで」に先行する事態が最終段階にまで発展しても必ずしも予測された関係になるわけではないことを表すことを述べた．

その「ところで」の意味については，「ところで」の従属節中の表現に注目し，「ても」と比較することによって検証した．その結果，「ても」には「も」の「並列・累加」が，「ところで」には直前の動詞の示す「事態の段階」が反映されており，「ても」と「ところで」が置き換え可能なのは，次の場合に限られるという違いも明らかになった．それは，「ても」が「ところで」の直前の動詞が表す一つの事態内での開始・終了といった段階を並列・累加する場合である．そして明らかに別の事態を並列・累加しているような場合には，「ところで」と置き換えはできないのである．

さらに「ところで」の従属節中に不定語が現れやすいこと，複数句が表せないこと，主節に否定表現が現れやすいこと，文末に意志や希望の表現が来にくいというこれまで先行研究で記述されていた構文的特徴と本稿での「ところで」の意味の関係を考察し，それらを関連づけた．

1. はじめに

本稿では，いわゆる逆接を表す「ところで」の詳細な意味の記述をし，先行研究で個々にあげられている構文的特徴の記述と意味記述を関連させることを目的とする．

「ところで」は逆接を表す接続表現の一つとされている．これまでの先行研究では，「ところで」について構文的な特徴の記述がなされており，主節に否定表現がくる傾向にあること，複数句が表せないこと，従属節に不定語が現れやすいこと，文末に意志の表現が来にくいことなどがあげられている．しかしながらこれまでのところ，個々にそのような記述をするにとどまっている．また，構文的特徴について「ても」と比較されることはあっても，どのような意味的な違い

* KATO Rie: 鹿児島純心女子大学講師．

があるのかについての詳細な記述はあまりされていない．「ところで」の意味と構文的特徴に関連はないのであろうか．また「ても」とはどう違うのであろうか．そこで本稿では「ところ」の意味を手がかりとして，「ても」と比較しながら「ところで」の意味記述をする．そしてこれまでに記述されてきた構文的特徴との関連についても考察することにする．

このような表現に対して，「逆接」あるいは「譲歩」という呼び方がされるが，それは研究の立場によるものなので，始めに用語の確認をしておく．

「譲歩文」「逆接」を，「理由文」「条件文」と関連づけ，複文の中で体系化する分析には二つの流れがある．一つには，論理学をもとにして条件文を中心に分析したもので，坂原（1985），小泉（1987），前田（1991）などがある．小泉（1987），前田（1991）は，「条件文」「理由文」などをまとめて「論理文」と呼んでいる．また，小泉（1987）では，「譲歩」という用語を用いている．前田（1991）では「逆接」としている．

もう一つは「原因・理由文」を中心におく分析で，言語学研究会・構文論グループの一連の研究が上げられる．ここでは「うらめ・ゆずり的」という用語も用いられている．

このように研究の立場によって呼び名が異なるが，本稿では，以後，「逆接」という用語で統一する．

本稿は以下のようにすすめる．始めに，**2.** で先行研究から「ところで」の構文的特徴と意味記述についてまとめる．**3.** では「ところで」の意味記述をし，「ても」と比較することによって **4.** でその検証をする．同時にそれまでの構文的特徴と意味記述との関連を考察する．

2. 「ところで」についての先行研究

本節では，「ところで」がどのような構文的特徴を持つとされているのかについての先行研究（寺村（1978），宮崎（1984），前田（1994），西原（1985））を整理する．

まず，構文的特徴として，主節が否定文でなければ用いられにくいことが，「ても」と「たって」との最も重要な相違点として前田（1994）にあげられている．

（１） ?そんなに一生懸命勉強しなかったところで合格できますよ．

（前田（1994: 109）用例の判断も）

前田（1994: 109）は「否定文」という言い方をしているが，「反語的疑問文や程度が少ない場合，あるいは『どうしようもない，無駄だ』等，否定的(あるいは非肯定的)な意味を持つ場合であればよい」として，次の例をあげている．

（２） しかしそれをしゃべってみたところで，彼になんの役にたとうか．また，何を理解できようか．（前田（1994: 109））

前田（1994）でも必ずしも否定文でなくてもいいとしているので，単に否定表現だけを指して

いるわけではないことはわかるが，しかしながら次のような「ところで」の例もある．

（３） たとえ先生がうちのを使えといったところで，子供はよそのをいくらでも買える．

（開高健『パニック・裸の王様』下線は引用者）

（４） 私がどんな風に考えたところで，世界はその原則に従って拡大していくのだ．

（村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』下線は引用者）

（５） たとえ謀反がおこったところで，あの者がうまくやるだろう．

（司馬遼太郎『国盗り物語』下線は引用者）

上の例は，「反語的疑問文や程度が少ない場合，あるいはどうしようもない，無駄だ」等，否定的(あるいは非肯定的)な意味を持つ場合ではないようだが，否定表現が用いられていない．これについては，宮崎（1984)[1] でも「前件の意図が実らない」という記述をしているが，次のような例をあげ，後件が必ずしもマイナス，不毛の結果であるとは限らないと付け加えている．

（６） 失敗したところで，ふり出しにもどるだけさ / やり直せばいい．（宮崎（1984: 39))

この例も主節に否定表現はないが，ではどような表現が主節にくるべきなのだろうか．

この他にも前田（1994: 108–109）では，「ても」と「たって」と比較し，次のような特徴を挙げている．「ところで」は「ても」や「たって」とは異なり，複数句は表せない．

（７） a.　??食べたところで食べなかったところで太らない．

（８） b.　*食べたところで食べたところで太らない．　（前田（1994: 108))

また，次の例のように，「ても」や「たって」と同様に不定語を含む節でも用いることができる(前田（1994: 108))，あるいは，不定語が現れやすい(寺村（1978: 335))とされている．

（９） 今となってはどんな釈明をしたところで，あのリンチに加わっていたという事実は拭いきれないだろう．　（前田（1994: 108))

このほかにも，宮崎（1984: 40）によれば，叙述・希望・意志を表す表現は「ところで」の主文に現れにくく，「ても」と比べて文末の呼応制限が厳しい．文末が話し手の希望(～たい)，意志(～しよう)，相手への命令(～しなさい)を表すときは次の例のように「ところで」は不自然であるとされている．

（10） a.　?両親が反対したところで私は大学に進学したい．

b.　?彼が反対したところで私は実行しよう．

c.　?彼が反対したところで実行しなさい．　（宮崎（1984: 40）用例の判断も）

以上のような記述が，先行研究において記述されている「ところで」の構文的特徴である．それらを整理すると，主節に否定の表現が来やすいこと，複数句が表せないこと，従属節に不定語が現れやすいこと，文末に意志の表現が来にくいことがあるといえる．しかしながらそれらは個々

[1] 引用した例文の下線部は本稿にあわせてある．

の記述にとどまっており，これまでのところ「ところで」の意味とは関連づけられていない．また，「ても」と比較されていても，意味の違いについてはあまり記述されていないことがわかった．

以上のような分析の成果を踏まえ，本稿では「ても」との違いが明示できるような「ところで」の意味を記述する．そしてこれまで先行研究であげられている「ところで」のいくつかの構文的特徴が「ところで」の意味とどのように関っているのかについて述べることにする．

3. 「ところで」の意味記述

はじめに先行研究を踏まえて「逆接」についての本稿での定義を述べる．

（11）「逆接」:「因果関係」と比較した結果，表そうとする事態がそれとは異なる関係にあることを話者が認めた時に用いられる表現[2]

これは「ところで」に限らず，「ても」等他の逆接の表現とも共通すると考える．では，「ところで」と「ても」とはどう違うのであろうか．そこで本節では「ても」との違いも明示できるような「ところで」の意味の記述することにするが，本稿では「ところ」の意味が「ところで」に反映されていると考えるので，意味記述に先立って，「ところ」の意味をまとめておく．

3–1. 「ところ」の意味

「ところ」のプロトタイプ的意味は次のような例のものであるとされている．

（12） トコロ変われば品変わる．/ トコロ狭しと動き回る．/ トコロかまわず . . .

（籾山（1992: 189））

先行研究(寺村（1978），田窪（1984），籾山（1992），Ohara（1995）他)では，「ところ」のプロトタイプ的意味については，〈場所〉であるという見方が概ね一致している．また「ところ」は〈場所〉を示すばかりでなく，プロトタイプ的意味から拡張した，〈時間〉が加わった例もあげられている．

（13） a. (今 / これから)出かけるトコロだ．

b. (今 / ちょっと前に)帰ってきたトコロだ．

c. (今)ごはんを食べているトコロだ． （籾山（1993: 43））

「ところだ」という文末の助動詞として用いられるときには，発話時点も考慮しなければならない(籾山（1993: 43))が，「〜るところ」「ているところ」「たところ」のみが示しているのは，「ところ」に先行する事態全体の「開始段階」「進行段階」「終了段階」であると考えられる．「て

[2] すでに成立しなかったのか，これから成立しない可能性があるのかといった違いが「のに」と「ても」の違いを記述する上では重要である．しかし，本稿では，「ので」と「ても」の違いを目的としているわけではなく，これを「ても」や「ところで」を含めた「逆接」の表現の定義と考え，これ以上は言及しない．

いたところで」はその事態の「進行段階」を，「たところで」はその事態の「終了段階」をというように，「ところで」はその直前の動詞の表す事態の段階を示しているのである．本稿では，接続助詞化した「ところで」にはこのような「ところ」の意味が関わっていると考える．

3–2. 「ところで」の意味

前節までに次のようなことをみてきた．「ところで」は「逆接」の表現で，「逆接」の表現には，二つの事態を話者が言語化する際に，「因果関係」が前提としてある．「逆接」を用いるためにはそのような「因果関係」との比較が必要で，その結果，表したい出来事の関係が「因果関係」とは異なる関係にあることを話者が認めた場合に用いられる．「ところで」の場合，それは次のようなものである．

「因果関係」から想定される事態が現れるには，「ところ」に先行する事態の開始段階ではまだ不十分であるかもしれないが，「たところ」が表すような最終段階にまで発展すれば可能になるかもしれない．しかし，その最終段階ですら，必ずしも予測された関係になるわけではない．

話し手は，予測どおりの関係が成立する可能性が極めて低く，「因果関係」にも例外があることを知っている．当然そうなるはずのものが，実際にはそうならないこともあるだろう．話し手の予想や期待にそむいて現実が進行していることと〈あてはずれの感情〉がつきまとうことが関わっている(言語学研究会・構文論グループ（1986: 52))のである．それ故「ところで」には「不毛の結果」「あきらめ」「否定的心情」「たかを括っている」(宮崎（1984: 38))という意味がでてくる．他の「逆接」を表す表現にも「話し手の私情」とも言うべきものがあるという見方がされているが，どの表現にも程度の差こそあれ，このような感情が含まれるのであろう．「のに」も「逆接的事態に対する話し手の違和感，意外感，驚きなどが含まれ得る」(前田（1995b: 500))とされている．以上のようなことから，「ところで」の意味を次のように考える．

(14) 「ところで」:「ところ」に先行する事態が「たところ」が表すような最終段階にまで発展しても必ずしも話者が因果関係と比較し予測した関係になるわけではないことを表す．

4. 検　　証

本節では，はじめに前節で示した「ところで」の意味を検証する．次に，「ても」と比較し，同時にこれまで出されている構文的特徴との関連を考察する．

4–1. 従属節中の表現

「ところで」は「ところ」に先行する事態が「たところ」が表すような最終段階にまで発展して

も必ずしも話者が因果関係と比較し予測した関係になるわけではないことを表す．従って，出来事の開始や終了といった「段階」が考えられない表現は従属節内に用いられにくいと考えられる．以下は，従属節内にそのような表現がある場合をあげ，それぞれが不自然になることを示すことによって検証する．

4–1–1. 従属節中の否定的表現

「ところで」の主節には，否定文がきやすいと分析されており，次の文は主節に否定がないから不自然になるという説明もできる．

（15） ?あなたが話さなかったところで，そのうち太郎の耳にも入るだろう．

「話さない → 耳に入らない」が「因果関係」であると話し手が考えることであり，それに一致しない場合は「耳に入る」である．「黙っている → 耳に入らない」という場合も同様の関係であろうが，「黙っている」ほうが上記の例に比べると自然である．

（16） あなたが黙っていたところで，そのうち太郎の耳にも入るだろう．

「黙っている → 耳に入らない」ということを，話し手が，「因果関係」であると考えていれば，それに一致しない場合は，「耳に入る」という肯定的な表現になる．（15）が不自然になるのは，主節ではなく，従属節の否定表現が関係していると考えられる．

では「否定表現」のどのような性質が「ところで」の意味と合わないのであろうか．「否定表現」は，「それに対応する肯定の事態や判断が成り立たないことを意味する」（益岡・田窪（1992: 140））とされている．「成り立つこと」か「成り立たないこと」かは，二項対立的で，否定表現がある時はその事態がまったく成り立たない時である．そのような場合は，開始や終了の段階が想定しにくいといえる．成り立ちにくさの程度のようなものは考えられるかもしれないが，少しでもその出来事が認められれば「成り立たない」とは考えないだろう．このようなことから「ない」のような表現は，「ところで」の従属文中には，用いられにくいと考える．例えば，次のような例は「ても」の場合は自然である．

（17） 食べられなくても構わないだろう．

（18） みられなくても，がっかりすることはないだろう．

しかしながら否定表現を従属節に含むこのような例は「ところで」に置き換えると不自然である．

（19） ?食べられなかったところで構わないだろう．

（20） ?見られなかったところで，がっかりすることはないだろう．

「ところで」の主節に否定表現がくる傾向が強いのは確かであり，上記の 2 例はそれを満たしているにも関わらず不自然な感じがするのは，この場合，従属節内に否定の表現があることも関係していると考えられる．

以上のようなことから，「ところで」の従属節内には出来事の開始や終了の段階の考えにくい否

定表現が現れにくいので，「ところで」の表す従属節には，段階の考えやすい出来事が表されていることが確かめられる．

4–1–2. 開始や終了の段階の考えにくい表現

前節では従属節中の否定表現を例に，「ところで」の従属節中には，段階の考えやすい表現が望ましいことを検証した．本節では，形容詞をもとにそれを検証する．

形容詞は，人やものの属性(性質や特徴)と，人の感情，感覚の状態を表す(益岡・田窪 (1992: 21))．感覚や感情にも程度があるが，次の例のような「正しい」「白い」などのような「状態」には出来事の開始や終了の段階は考えにくい．そのような表現を含む次の 3 例は，「ても」の場合は自然である．

（21） こうした評価は，ある意味では正しくても，常に妥当であるとは思えない．

（22） 歯が白くても，不快な口臭があったのでは，本当は美しいことにはならないのだ．

（23） しかしそれらの絵はきわめて芸術的ではあっても，真の意味での芸術作品にはなりえていない．（村上春樹『やがて哀しき外国語』講談社文庫，p. 69，下線は引用者）

しかし，上記のような例は，「ところで」とは置き換えられない．

（24） *こうした評価は，ある意味では正しかったところで，常に妥当であるとは思えない．

（25） *歯が白かったところで，不快な口臭があったのでは，本当は美しいことにはならないのだ．

（26） *しかしそれらの絵は極めて芸術的であったところで，真の意味での芸術作品にはなりえていない．

以上のように，本節では，この構文の従属節には，どのような表現が現れやすいのかについて考察をした．その結果，否定や形容詞といった段階の考えにくい表現では不自然で，「ところで」の従属節中には，段階の考えやすい事態のほうがよいということが検証された．そこから，「ところで」に前節する動詞の表す事態の最終段階が表されていると考えることができる．

4–2. 「ても」との比較及び構文的特徴との関連

前節では，「ところで」の従属節中の表現に注目することによって，「ところで」が最終の段階を予測していることを検証した．本節では，「ても」と比較することによって検証を続ける．まず，次の例を見られたい．

（27） 何を言っても / たところで，太郎は耳をかさないだろう．

このように，「ても」と「ところで」は置き換えてもほぼ内容が変わらない例がある．しかし，次節以下にあげるように，必ずしも常に置き換えが可能というわけではない．そこで，本節では，「ても」には先行研究で示されているような「も」の「並列・累加」が，「ところで」には直前の

動詞の示す「事態の段階」が反映されており，「ても」と「ところで」が置き換え可能なのは，「ても」が「ところで」の直前の動詞が表す一つの事態内での開始・終了といった段階を並列・累加する場合であることを示す．まずそれに先立って，「ても」の意味を先行研究から示しておく．

4–2–1. 「ても」の分析

本節では，「ても」の意味を先行研究(前田（1993）（1994))をもとに示す．

「ても」文は，先行研究では，「条件の否定」説，「条件の取り立て」説の二種類に位置づけされる．前田（1993）（1994）は，条件の否定とするには，条件文と「ても文」が必ずしも平行的には用いられないことから後者の立場に立ち，次のように記述している．

「ても」は，後件の帰結を引き起こす条件として，前件が唯一ではないということを含意することによって条件的関係を否定する．「ても」は語構成的にみても，また，一文中の反復の可能性からみても，本来，条件の「否定」というよりも，「並列・累加」であると考えられる．即ち，新たな条件，状況が起こった場合に，先行する条件文と帰結が変わらないことを示すということである．次のように，二つの条件文を並列的に並べてつなぎ，一つにしたような表現であって，二つ目の条件文では必ず「ても」を用いなければならない．

（28）

3 を自乗すると 9 になる． ＋ − 3 を自乗すると 9 になる．

↓

3 を自乗すると(しても)9 になるし，− 3 を自乗しても 9 になる． （前田（1994: 107））

そしてなぜ条件の「並列・累加」が「逆接」を表すのかについては，次のように説明している．

「A すれば B」では，「A でなければ B でない」という誘導推論を引き起こし，「B になる唯一の条件が A である」ことを同時に含意しやすい．「B になる新たな条件を並列・累加する」ことはこの「唯一の条件である」という含意を否定する事態となる．そのような意味で，条件の並列・累加は条件の「否定」となる(前田（1994: 107))．

以上のように，「ても」も「逆接」の特徴を表すが，それは「も」の並列・累加が反映されてのことであることを先行研究から述べた．以下に「ところで」の意味の検証をこのような「ても」と比較することによってすすめるが，これは同時に，これまで出されていた構文的特徴との関連を考察することでもあると考える．

4–2–2. 複　数　句

「ところで」は「ても」や「たって」とは異なり，複数句は表せないことが構文的特徴としてあげられている．肯定句，否定句の反復や同一句の反復は許容度がかなり落ち，「ても」や「たって」が持つ複合助動詞的な用法も「ところで」にはない(前田（1994: 109))とされている．

（29） a. ??食べたところで食べなかったところで太らない．

b. *食べたところで食べたところで太らない． （前田（1994: 108））

これは，「ところで」が一つの事態内での比較をしていることに関係する．例では「スーパーマーケットに行く」「デパートに行く」という二つの事態を比べている．これは「ところで」では言えない．

（30） アメリカではスーパーマーケットに行ってもデパートに行っても買うことができない．

（31）*アメリカではスーパーマーケットに行ったところでデパートに行ったところで買うことができない．

「ところで」は，従属節が示す最終段階において「因果関係」とは異なる関係が認められる時に用いられるので，否定された事態のことを同時に示す必要はない．従って，肯定句・否定句の反復にも用いられないのである．

（32） *スーパーマーケットに行ったところで，行かなかったところで買うことはできない．

「ところで」は，従属節中の動詞が示すある段階においての例外を示す．同じ段階のことを繰り返す必要はないからである．

（33） *食べたところで，食べたところで太らない．

以上のように，「ところで」が複数句が表せないのは，一つの事態内の同じ段階を繰り返し述べる必要がないからであることを述べた．

4–2–3. 従属節中の不定語

本節では，「ところで」の従属節中の不定語について考察をする．

前田（1994: 108–109）では，「ところで」を「ても」と「たって」と比較し，「ところで」も「ても」や「たって」と同様に不定語を含む節でも用いることができるという特徴を挙げている．

（34） 今となってはどんな釈明をしたところで，あのリンチに加わっていたという事実は拭いきれないだろう． （前田（1994: 108））

このことは，従属節中の述語の表す一つの事態の中の段階であると考えられれば，「ところで」と「ても」は置き換えられるという理由が考えられる．一つの事態が進展していく程度が「いくら」などの不定語から感じられるからである．

（35） 茶色くなって正体を失うまで「めきゃべつ」や「さやいんげん」を茹で抜いても，それはそれで当然かもしれぬ．

「茹で抜いた」というところから，程度が感じられる．少々茹でるのは当然であり，また，かなりの程度茹でるのも当然なのである．このように，この場合の「ても」は一つの事態の中での並列・累加なので，「ところで」でも置き換えられる．

（36） 茶色くなって正体を失うまで「めきゃべつ」や「さやいんげん」を茹で抜いたところ

で，それはそれで当然かもしれぬ．

次の例も不定語を含む例である．

（37） ところが，日本の女子大生どもと来たひには，いくらそのおいしさを説明してやっても，「いやだぁ，そんなの．キモチワルーイ」などというばかりである．

（林望『イギリスはおいしい』文春文庫，p. 88，下線は引用者）

この例も「いくら」という部分から，程度が感じられる．次の例のように「ところで」も用いられる．

（38） ところが，日本の女子大生どもと来たひには，いくらそのおいしさを説明してやったところで，「いやだあ，そんなの．キモチワルーイ」というばかりである．

少々の説明ではわからないかもしれないが，かなりの程度説明しても同じく理解されないという点で，一つの事態の中での並列・累加であると考えられる．次の例も同様である．

（39） だから睡眠さえたっぷりとればその疲労はとれたものですが，近頃のように若いころから精神や目を異常に使う仕事に携わるようになると，眠ったところで回復はしません．（『PHP スペシャル』1999 年 9 月号，PHP 研究所，p. 126，下線は引用者）

この例では「たっぷり」という副詞から休息の程度がたりないことがわかる．「ところで」は一つの事態の中での段階や程度を表す．「ところで」には「いくら」や「どれほど」といった先触れのことばが現れることが多い(寺村（1978: 335))という記述はこのように説明できる．

以上のように，「ところで」に「いくら」「どれほど」などの不定語が現れる理由は，事態が進んでいくと程度が増すことにあることを述べた．

4–2–4. 主節の否定表現

本節では「ところで」では，主節に否定的な要素が来なければならないというのはどのようなことなのかについて考察をする．本稿では，それは因果関係から予測されたとおりの変化が起こるわけではないという意味でのことであると考える．もし肯定的である事態が予測されれば，それに反するものとして否定の表現が主節に現れる．そしてもし否定的な事態が予測されるのが自然な流れだとすると，その例外として，主節が肯定的な表現で表されることもあり得る．次の例を見られたい．

（40） a. 油を使わなければ，低カロリーであるとは言い切れない．油を少量にして照り焼きにしたところで，カロリーは高い．

b. 油を使わなければ，低カロリーであるとは言い切れない．油を少量にして照り焼きにしても，カロリーは高い．

この例では，「油を使わない → 低カロリーである」というのが「ことがらの必然的なあり方，成り行きであると話し手が考えること」である．しかし，調理法によっては油を使う揚げ物より

もカロリーが高い料理があることをこの例では指摘している．「油とカロリー」という，話し手が通常持っている「因果関係」と比較した結果，それとは異なる関係を認めたことを表す文であるといえる．これは「高い—低い」という反意語で表され，どちらが否定的であるのかは状況によるだろう．

（41） 配線のどこかが故障しているから，電球のせいではない．電球をかえたところで同じだろう．

また，この例では，「電球をかえる → 状況が変わる」というのが「因果関係」であるが配線に故障があるので状況は同じであるというのが「因果関係」とは異なる関係である．

以上のように，「逆接」の定義で示したような話し手が通常持っている「因果関係」とは異なる事態を話し手が認めた場合が，「ところで」で示されるのである．否定的表現が主文に現れる傾向が強いが，必ずしも常に否定的表現が現れなければならないわけではないといえる．

4–2–5. 文末の制限

本節では，本章での「ところで」の意味と，「ところで」の主節に希望や意志を表す表現が現れにくいという先行研究で記述された「ところで」の構文的特徴について考察をする．

宮崎（1984）によれば，叙述・希望・意志を表す表現は「ところで」の主文に現れにくく，「ても」と比べて文末の呼応制限が厳しい．文末が話し手の希望(～たい)，意志(～しよう)，相手への命令(～しなさい)を表すときは次の例のように「ところで」は不自然である．

（42） a. ?両親が反対したところで私は大学に進学したい．
b. ?彼が反対したところで私は実行しよう．
c. ?彼が反対したところで実行しなさい．　（宮崎（1984: 40）用例の判断も）

上記の例では，因果関係から予測される事態につなげようと努力することが，「したい」「しよう」といった希望や意志を表す表現があることから窺える．ところが，「ところで」は因果関係どおりに事態が進まないことを表すので，その関係を実現しようとする希望や意志を表す表現とは矛盾するのである．これに対して，「ても」が「逆接」を表すのは，「A ならば B」で「B になる新たな条件を並列・累加する」ことで「唯一の条件である」という含意を否定し，条件の否定となるからであるとされている．このことから，（42a）では，「進学したい」という結果になる新たな「両親が反対する」という条件を並列・累加することによって，「逆接」を示していると考えられる．文末に希望や意志を表す表現があっても B になる新たな条件を並列・累加することはできるので「ても」の場合には用いることができるのである．

以上のように，「ところで」の主節に，希望や意志を表す表現を用いることができない理由について述べた．

5. ま と め

本稿は，「ところで」の意味について考察をし，「ところで」は，話者が因果関係と比較した結果，「ところ」に先行する事態が最終段階にまで発展しても必ずしも予測された関係になるわけではないことを表すことを述べた．

その「ところで」の意味については，「ところで」の従属節中の表現に注目し，「ても」と比較することによって検証した．その結果，「ても」には「も」の「並列・累加」が，「ところで」には直前の動詞の示す「事態の段階」が反映されており，「ても」と「ところで」が置き換え可能なのは，次の場合に限られるという違いも明らかになった．それは，「ても」が，「ところで」の直前の動詞が表す一つの事態内での開始・終了といった段階を並列・累加する場合である．そして明らかに別の事態を並列・累加しているような場合には，「ところで」と置き換えはできないのである．

さらに「ところで」の従属節中に不定語が現れやすいこと，複数句が表せないこと，主節に否定表現が現れやすいこと，文末に意志や希望の表現が来にくいというこれまで先行研究で記述されていた構文的特徴と本稿での「ところで」の意味の関係を考察し，それらを関連づけた．

以上のように，「ても」と「ところで」の違い，そして「ところで」の構文的特徴と意味の記述との関連が明らかになったが，次のような例については考察ができなかった．

（43） たとえ先生がうちのを使えといったところで，子供はよそのをいくらでも買える．
（＝(3)）

(43) のような例には，前提となる因果関係との比較の結果，それと異なる関係が表されているのではなく，そうなる理由が表されているようであるが，それについては，今後の課題としたい．

例文出典

開高　健『パニック・裸の王様』，村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』，司馬遼太郎『国盗り物語』は CD-ROM 版『新潮文庫の 100 冊』から採集した．

参 考 文 献

岩澤治美（1985）「逆接の接続詞の用法」『日本語教育』56，39–50.
言語学研究会・構文論グループ（1985）「条件づけを表現するつきそい・あわせ文(一)——その 1．まえがき——」『教育国語』81，19–31.
小泉　保（1987）「譲歩文について」『言語研究』91，1–14.
坂原　茂（1985）『日常言語の推論』，東京大学出版会.
田窪行則（1984）「現代日本語の『場所』を表わす名詞類について」『日本語・日本文化』12，89–115.
寺村秀夫（1978）「『トコロ』の意味と機能」寺村（1992）所収，321–336.
————（1992）『寺村秀夫論文集 I』，くろしお出版.

生田目弥寿（1982）「接続の表現」『日本語教育事典』，大修館書店，211–214.
西原鈴子（1985）「逆説的表現における三つのパターン」『日本語教育』56，28–38.
前田直子（1991）「条件文分類の一考察」『日本語学科年報』13，東京外国語大学，55–79.
————（1993）「逆接条件文『～テモ』をめぐって」益岡隆志編『日本語の条件表現』，くろしお出版，149–167.
————（1994）「条件表現各論——テモ / タッテ / トコロデ / トコロガ——」『日本語学』13（9），104–113.
————（1995）「ケレドモ・ガとノニとテモ——逆接を表す接続形式——」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義語表現の文法(下)複文・連文編』，くろしお出版，495–505.
益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法改訂版』，くろしお出版.
宮崎茂子（1984）「～たところで / ～たところでは」『日本語学』13（10），35–41.
籾山洋介（1992）「多義語の分析——空間から時間へ——」カッケンブッシュ寛子他編『日本語研究と日本語教育』，名古屋大学出版会，185–199.
————（1993）「多義語分析の方法——多義的別義の認定をめぐって——」『日本語・日本文化論集』1，名古屋大学留学生センター，35–57.

Ohara, Kyoko Hirose (1995) What's in a place? Extended uses of physical-world noun in Japanese. *BLS*, 21: 237–251.